

第4問 (20点)

中野製作所(本社東京都)は熊本市に工場をもっており、本社会計から工場会計を独立させている。

[資料]

- ① 材料の発注、製品の受注はすべて本社が行っている。ただし、発注した材料は工場へ直接納入される。
- ② 材料購入代金の支払いをはじめ、すべての支払関係は本社が行っている。
- ③ 完成した製品は、いったん工場内の製品倉庫にて保管され、品質検査後に得意先へ直接納品される。
- ④ 固定資産の管理は本社が一括して行っており、工場の総勘定元帳に固定資産関連の勘定はない。

下記の(1)～(5)は、当製作所の5月における取引の一部である。工場および本社において行われる仕訳を示しなさい。なお、仕訳に用いる勘定科目は、次の中から最も適当なものを選ぶこととする。また、仕訳が存在しない場合、「借方科目」の欄に「仕訳なし」と記入すること。

工	場	仕	掛	品	損	益	売	上	材	料
現	金	部		品	買	掛	金	売	掛	金
売	上	原	価	本	社	製	造	間	接	費
							当	座	預	金
									機	械
									減	価
									償	却
									累	計
									額	
									製	品

- (1) 材料 400,000 円を掛けにて購入し、当該材料が工場の材料倉庫に納入された。
- (2) 製品製造のため依頼しておいた外注加工の代金 140,000 円を支出し、加工済み部品はただちに製造現場へ納入された。なお、支払は小切手を振り出して行っている。
- (3) 当月の機械減価償却費を計上した。機械減価償却費の年間見積額は 1,200,000 円である。
- (4) 製品 800,000 円が完成し、製品倉庫に保管された。
- (5) 製品検査が完了し、問題がなかったため、(4)で完成した製品が得意先へ掛けで納品された。なお、製品原価に 30%の利益を付した金額を販売価格としている。また、売上原価の計上は販売時に本社側で行うものとするが、製品勘定は工場に設けられている。

**第 5 問 (20 点)**

二本木製作所では、A 製品と B 製品の異種製品を同一工程で連続生産し販売しており、原価計算に関する [資料] は次のとおりである。下記の [資料] にもとづき、(1) 当月加工費および完成品総合原価を製品別に計算し、(2) 答案用紙の損益計算書を完成させなさい。

**[資料]**

1. 製品原価の計算方法には組別総合原価計算を採用している。
2. 原料費は各組に直課し、加工費は直接作業時間を配賦基準として各組に実際配賦している。
3. 月末仕掛品原価の計算には先入先出法を、月末製品原価の計算方法には平均法を用いている。
4. 原料はすべて工程の始点で投入され、月初・月末仕掛品の加工進捗度は A・B 製品ともに 0.5 である。
5. 生産データ

	A 製品	B 製品	
月初仕掛品量	150 個	50 個	
当月完成品量	1,200 個	1,500 個	
仕 損 量	50 個	20 個	※ 仕損は工程の途中で発生し、評価額はない。
月末仕掛品量	200 個	150 個	

6. 原価データ

月初仕掛品原価：原料費	450,000 円	(内訳：A 製品 270,000 円、B 製品 180,000 円)
加工費	380,000 円	(内訳：A 製品 228,000 円、B 製品 152,000 円)
当月製造費用：原料費	8,006,500 円	(内訳：A 製品 2,262,500 円、B 製品 5,744,000 円)
加工費	12,975,000 円	

7. 直接作業時間データ

当月実際直接作業時間合計 8,650 時間 (内訳：A 製品 2,450 時間、B 製品 6,200 時間)

8. 販売データ

	A 製品	B 製品
月初製品在庫量	180 個	100 個
月初製品単位原価	4,725 円/個	9,005 円/個
月末製品在庫量	230 個	130 個
当月実際販売単価	8,000 円/個	15,000 円/個

※ A 製品、B 製品ともに棚卸減耗は生じていない。

9. 販売費および一般管理費の総額は、6,684,150 円であった。